

第 9 回世帯動態調査

(2024年社会保障・人口問題基本調査)

現代日本の世帯変動

The 9th National Survey on Household Changes, 2024

国立社会保障・人口問題研究所

National Institute of Population
and Social Security Research

Tokyo, Japan

序 文

わが国では、過去数十年の間に出生率の低下・低迷、高齢化、未婚・晩婚化、離婚率の上昇といった人口学的変化が進行した。これらは、世帯の規模と構成、形成や解体の過程にも大きな影響を及ぼし、国民の生活単位である世帯は大きく変化している。国立社会保障・人口問題研究所では、こうした世帯変動の現状を把握し、また世帯の将来動向を予測するための基礎データを得ることを目的として、5年おきに「世帯動態調査」を行っている。本報告書は、2024年7月に実施された第9回調査の結果をとりまとめたものである。

本調査の結果は、世帯数の将来推計の基礎資料として活用される。高齢の独居世帯や夫婦世帯など高齢者の家族関係と世帯構成の変化やひとり親と子の世帯の動向の把握は、社会サービス施策の重要性が高まるなかで厚生労働行政上において重要な資料を提供するものである。また、近年、未婚のまま親と同居を続ける若・青年層の増加などにも大きな関心が寄せられている。本書が世帯の動向に関心を持つ方々の参考資料として利用されることになれば幸いである。

この調査の実施に際しては、厚生労働省政策統括官（総合政策担当）付政策統括官室、都道府県、政令指定都市、中核市、保健所ならびに調査員の方々、そして何より調査対象者の皆様から多大なご協力を得ることができた。ここに深く感謝の意を表したい。

なお、この調査は、小池司朗（人口構造研究部長）、菅桂太（同部第一室長）、久井情在（企画部第一室長）、清水昌人（情報調査分析部長）、貴志匡博（人口構造研究部主任研究官）、小山泰代（同部第三室長）、藤井多希子（社会保障基礎理論研究部長）、中川雅貴（国際関係部第一室長）、中村真理子（情報調査分析部主任研究官）、鈴木透（元・国立社会保障・人口問題研究所副所長）、山内昌和（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）、廣嶋清志（島根大学名誉教授）、鎌田健司（明治大学政治経済学部准教授）からなるプロジェクトチームによって実施されたものである。

令和8年3月

国立社会保障・人口問題研究所長
林 玲子

現代日本の世帯変動

第9回世帯動態調査（2024年社会保障・人口問題基本調査）

目次

I	調査の概要	1
	1. 第9回世帯動態調査の概要	1
	2. 調査手続きと調査票の回収状況	1
	3. 回収方法	3
	4. 調査員の訪問回数	5
II	世帯の現状	9
	1. 各人の所属世帯	9
	2. 住宅	12
III	親族の居住関係	15
	1. 子との居住関係	15
	2. 親との居住関係	18
	3. その他の親族との関係	20
IV	世帯の継続と変化	23
	1. 現世帯主の世帯主歴	23
	2. 継続世帯における転入と転出	25
	3. 世帯規模の変化	26
	4. 家族類型の変化	26
	5. 世帯主からの離脱	27

V	世帯の形成と拡大	29
	1. 親世帯からの離家	29
	2. 同棲	33
	3. 結婚	34
	4. 子の出生	35
VI	世帯の解体と縮小	37
	1. 配偶者との死別・離別	37
	2. 子の離家とエンプティ・ネスト	39
	3. 高齢者の健康状態と居住状態	42
	付属資料	45
	1. 調査関係資料	49
	2. 主要結果表	177
	3. 変数コード表	199

図表リスト

表 I-1	家族類型別世帯数と割合(%)の比較	2
表 I-2	18 歳以上世帯員の年齢別分布	3
表 I-3	世帯規模別回収状況	4
表 I-4	世帯主の年齢別回収方法	5
表 I-5	配布方法別、調査票配布のための訪問回数	6
表 I-6	世帯規模別、調査票配布のための訪問回数	7
表 II-1	世帯規模分布	9
図 II-1	世帯員の男女年齢別にみた所属世帯の規模分布	10
図 II-2	男女年齢別にみた所属世帯の平均規模	10
表 II-2	世帯の家族類型別にみた世帯人員および世帯数	11
図 II-3	男女年齢別にみた所属世帯の家族類型（4 区分）割合	12
表 II-3	男女別にみた住宅の種類別人口割合	13
図 II-4	男女年齢別にみた住宅の種類別人口割合	13
表 III-1	男女別にみた 18 歳以上の子どもの有無と同居割合（%）	15
図 III-1	男女年齢別にみた 18 歳以上の子どもの有無と同居割合	16
図 III-2	年齢別にみた同居子の続柄別割合（18 歳以上の子）	17
図 III-3	子の離家の状態別、子との同居の有無別人口割合	17
表 III-2	父母の生存状態別 20 歳以上人口割合	18
図 III-4	年齢別にみた父母の生存状態別人口割合	18
図 III-5	自己の年齢別にみた親の生存数別人口割合	19
表 III-3	男女別にみた自分の親の生死、同居の有無別 20 歳以上人口の割合	19
図 III-6	男女年齢別にみた自分の親の死亡割合、同居割合、別居割合	20
表 III-4	有配偶者の男女別にみた配偶者の親の生死、同居の有無別 20 歳以上人口の割合	20
図 III-7	有配偶者の男女年齢別にみた配偶者の親の死亡割合、同別居割合	20
表 III-5	出生年次別平均きょうだい数	21
図 III-8	出生年次別平均きょうだい数	21
表 III-6	出生年次別親との続柄別割合	21
表 IV-1	現世帯主の世帯主歴	23
図 IV-1	男女年齢別、世帯主歴別、世帯主の割合（世帯員総数に占める割合）	24
表 IV-2	交代型世帯主からみた前世帯主の続柄	24
図 IV-2	男女年齢別、前世帯主の状態別、交代型世帯主の割合（世帯員総数に占める割合）	25
表 IV-3	継続世帯における 5 年間の転入と転出	25
図 IV-3	5 年前と調査時点の継続世帯の世帯規模（継続世帯総数に占める割合）	26
表 IV-4	継続世帯の 5 年前の世帯規模別にみた調査時の世帯規模（5 年前の世帯規模別総数に占める割合）	26
表 IV-5	継続世帯の 5 年前の家族類型別にみた調査時の家族類型（5 年前の家族類型別総数に占める割合）	27
図 IV-4	男女年齢別、旧世帯主の割合（世帯員総数に占める割合）	27
表 V-1	若年層の離家経験の有無	29
表 V-2	若年層の離家経験の有無：単独世帯を除く	31
図 V-1	平均離家年齢の推移	31
表 V-3	離家のきっかけ（%）	32
表 V-4	35 歳未満世帯主の配偶関係とパートナーの続柄	33
図 V-2	男女別、5 歳階級別同棲割合	34
表 V-5	男女別、5 歳階級別未婚率（%）	35
表 V-6	男女別、5 歳階級別、子との同居割合（%）	35
表 VI-1	男女年齢別にみた過去 5 年間の死別経験率（%）	37
表 VI-2	男女年齢別にみた過去 5 年間の離別経験率（%）	37
表 VI-3	死別前後の家族類型	38

表VI-4	離別前後の家族類型	38
図VI-1	世帯主の年齢別、夫婦と子から成る世帯から 夫婦のみの世帯へと移行した継続世帯の割合	39
図VI-2	世帯主の年齢別、別居した子の性別、「エンプティ・ネスト」世帯の 5年間以内に別居した子の離家理由の構成割合 ...	40
図VI-3	調査回別、子の離家段階別割合	41
図VI-4	男女年齢別、子の離家段階別割合	41
図VI-5	男女年齢別、介助・介護が必要な者の割合	42
図VI-6	介助・介護の要・不要別、家族類型分布（65歳以上）	43
図VI-7	要介護高齢者（単独世帯、夫婦のみ世帯）における最近居子の居住地...	43
図VI-8	介助・介護の要・不要別、同居子の離家経験の有無（65歳以上）	44